

第114回 定時株主総会のご報告

2018年6月14日(木)に、「第114回 定時株主総会」を当社本店で開催いたしました。ここでは、当日の質疑応答の一部をご紹介します。

▼ オリンピック・パラリンピック



<株主様>

トヨタが、オリンピック・パラリンピックに関わる意義は何かを聞きたい。

より豊かなモビリティ社会を提案していきたいと思っています。

社長の豊田は、クレイヴァンさん(前国際パラリンピック委員会会長)との出会いを通じて、誰かが何かに挑戦したいと思っているときに、**移動が挑戦するための障がいではなくて、夢をかなえるための可能性になってほしい**と思うに至りました。



<早川副会長が回答>

当社従業員が車椅子に乗ってゴミ拾いをしたり、障がい者の方と一緒にスポーツを楽しむことによって、**多様性とか優しい心がめばえ、お客様、世の中の役に立ちたいということが、少しずつ湧き起こってくるような気**がします。その活動は**お金に変えられないかけがえのないものであり、必ずトヨタの企業価値向上につながる**と信じています。



<小林副社長が補足回答>

▼ 台数を追わない理由



<株主様>

世界販売台数について、もう一度数値目標にこだわってほしい。

着実に成長するために、安全で高品質、お求めいただきやすい価格のクルマをご提供するとともに、お客様を大事にするような販売のあり方にこだわり、**一人ひとりのお客様の心の中のNo.1になりたい**。販売台数や利益は、その結果だと考えています。



<ルロワ副社長が回答>

▼ 50年～100年先の未来



<株主様>

50年～100年先の未来についてどう考えているか。

モノづくりがどう変わろうが、その中心にいるのは人です。どんなことでもチャレンジしてやりきる、こういう集団をつくっていききたいと思っています。



<河合副社長が回答>

50年後、100年後もクルマが多くの人から愛される世界であってほしいと思っています。**50年後、100年後もトヨタという会社が存在し、故郷である日本からあてにされる存在であってほしい**とも思っています。そのためには、世の中から必要とされ、厳しい闘いを生き抜く強さがなければなりません。みんなで心を合わせて、トヨタ生産方式(TPS)と原価低減というトヨタらしさに磨きをかけ、これからも1日1日を必死に生き抜いてまいりますので、株主の皆様からの変わらぬご支援、よろしくお願いしたいと思います。



<豊田社長が補足回答>

▼ 自動運転の実現



<株主様>

自動運転は、まずは高速道路で走らせることができるのか。

トヨタには、**Mobility Teammate Conceptという、人とクルマがお互い助け合って事故を減らしていくという、自動運転に対する考え方**があります。コスト、信頼性、実用性、そしてまず交通事故を無くすということを優先した開発を進めています。2020年に、高速道路の入口から出口までの分岐交流、追い越しレーンチェンジなどをドライバーの監視下で自動で行えるHighway Teammateを商品化する予定です。



<友山副社長が回答>

▼ ホーム&アウェイ



<株主様>

広瀬工場をデンソーへ統合するとか、アフリカの営業機能を豊田通商へ移管するとかの報道を見るが、今後トヨタグループはどうなるのか。

ホーム&アウェイの視点で、**グループ各社が自分たちの得意なホームのビジネスを一層鍛え上げて、トヨタグループとしては、グループ全体の競争力を高め、企業価値を上げていきたい**と考えています。



<寺師副社長が回答>

「トヨタにとってアウェイだから切り離すのか」。私の中にそうした気持ちは全くございません。あるのは、内なる闘いをしている暇はないという危機感です。**日本の未来、モビリティの未来を創造するという志のもとにグループの総力を結集し、ともに生き抜いていくために必要不可欠なグループ戦略**だと思っています。



<豊田社長が補足回答>

▼ 愛車



<株主様>

電動化、知能化、自動化が進んでいく中で、今後愛のつくクルマをつくってくれるのか。

愛車の価値というのは、時代や技術が変わっても変わらない普遍的なものだと思います。こだわりとしているところは、定量化できないところであり、最後の最後までリアルで走り回ってクルマを鍛えています。

見て、乗って、ワクワクドキドキする、このクルマがほしい。そういった愛車を今後ともつくり続けてまいります。



<吉田副社長が回答>